

一般質問通告書

受領日時 令和7年8月19日 午前9時50分

11番 氏名 斎藤 晋

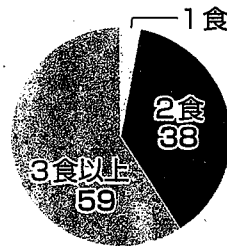
質問項目	質問の要旨
1 公共施設をもつと町民に開放すべき	物価高に、猛暑・厳寒など電気代・灯油代の節約のため公共施設を開放し、町民の寄り合いの場も同時に作れるよう、積極的に開放すべきである。 (1) 五城館・朝市ふれあい館・公民館など、公共施設を猛暑日・厳寒日に開放し町民を快適に過ごしてもらう一助を町が担うべきと思うが、町長はどう思う。 (2) 町民が集う場所であるから、何か活動を加え町民の健康にも役に立つ場として活用もできると思うが。 (3) 積極的に全世代の町民に案内し、各世代の町民が集えるように工夫し、世代間の話し合いや、活動が発生するように町が手助けするべきと思うが。 ＊上記1・2・3を一括で回答を
2 ひとり親家庭の貧困について	ひとり親家庭の41%が「夏休み中に子供が1日2食以下で過ごしている」・・・・・・（8月5日魁新聞掲載） (1) 町の一人親家庭の数は、（男親・女親の数は）。親の年収は。 (2) ひとり親家庭に対する、国・県・町の補助はどうなっている。この補助で十分と考えているか。この補助金の総額は。子供が生まれたら、大学生まで、一千万円（国・県・町の補助も併せて）の補助の話は前に出したが、今後検討するつもりは有るか。 (3) 日本一子供を育てやすい町にするために、町がこれからすべきことは何か。

3 空き家対策は	(1)解体しなければならない、空き家は何件あるか。町としてどのような指導をしているか、補助金申請などの手助けはしているか。案内はしているか。 (2)まだ使える空き家が、解体されている。町では空き家の利活用についてどう考えているか。町が移譲を受けたり・買取をして、利活用を推進するつもりはないか。
4 災害に強い町・美しい町にするために	(1)災害に強い町を作るために、今後町は何をするのか、すべきなのか。 (2)空き家が増え、空き地が増え、枝が伸び放題の空き家・アナグマやハクビシンの住処になっている空き家・雑草が生えて熊が隠れることができる空地、対策は。 (3)美しい町にするために、町は何をするのか、すべきなのか。
5 クマ対策は	(1)クマ目撃状況は。クマの被害者状況は。クマ対策は。

ひとり親家庭の41%が「夏休み中に子どもが1日2食以下で過」している」と答えたことが4日、民間団体の調査で分かった。昨年より7割増えた。子どもが貧血になったり、親が1日1食に減らしたりする家庭もあった。夏休みは給食がなく、光熱費もかかる。物価高が続く中、食費を切り詰

夏休み・子どもの食事回数

家庭のひとり親の夏休み中の子どもの1日の食事回数



※しんぐるまざあずふぉーらむの調査結果による

めるなど深刻な状況が浮き彫りになった。

NPO法人「しんぐるまざあず・ふぉーらむ」が7月下旬、ひとり親家庭を対象に調査。全国の約3900人が回答し、

上り、昨年の41%より大幅に増えた。

ひとり親の41% 「1日2食以下」

7割が小中学生のいる家庭だった。全体のうち38%が「1日2食」、3%が「1日1食」で夏休みを過ごしていると答えた。

コメを買えない時が「よくあった」「時々あった」は合わせて66%に

目に見えて分かる」といった声が寄せられた。

法人の小森雅子理事長は4日、報告会を開き「命の危機と言える状況だ。現金やコメの給付など一刻も早く支援してほしい」と訴えた。